

【飛躍カンパニー】マイクロインテレクス 「QR」カラー化で信用性向上

2012.2.29 05:00

カラー化されたキャラクターの鮮やかなデザイン。一見、企業のロゴかと思いきや、商品に表示される2次元バーコード「QRコード」というから驚かされる。ITベンチャーのマイクロインテレクス(徳島県小松島市)が開発し、関連特許を日米で取得した新技術だ。

現在、使用されているQRコードは白黒のモザイク模様が一般的だが、幅広い色表現が可能になったことで、広告やセキュリティー効果の向上につながる。斉藤孝弘社長は、教師から起業したという異色の経歴の持ち主。普及が拡大するスマートフォン(高性能携帯電話)の使用効率を上げた技術を開拓するなど、消費者の生活に密着した新技術を次々と生み出している。

「業界を問わず、コードの信用性を高めるために、この技術は必要不可欠だと思う」。斉藤社長は、マイクロでカラー化したQRコードを手にも力強く語る。QRコードは、携帯電話をかざすだけで簡単に情報が確認できるが、悪用して不正サイトにアクセスさせる「フィッシング詐欺」も続出。利便性を高めているはずが、利用に二の足を踏む消費者も増えている。現状を打破するために、コードの安全性を証明する技術が必要だった。

斉藤社長は、赤、青、緑の3原色を基本に色の彩度を調整して、カラーやキャラクターの形でありながら、白黒コードと同様の読み取りの精度をあげるのに成功。法人向けに今年1月からオーダーメイド受注を開始した。どのサイトにつながるのか一目で分かり、安心・安全の確保が可能になった。

斉藤社長は、同志社大工学部を卒業後、大阪府内の高校教師として理科を指導するかたわら、商品識別などに用いるバーコードのカラー化を研究。特許の取得後、2008年にマイクロを設立した。人を育てる教師を通じて肌で感じた社会に対する問題意識が、技術開発の原点になっている。

マイクロが現在、特許出願中のスマホ新技術は、両手が自由に動かせない障害者や小さな画面を見づらい高齢者のための“バリアフリー技術”だ。斉藤社長は、片手で本体を振る動作だけで、スマホの操作ができるソフトの制作方法を独自開発した。

スマホの多くには、本体の上下左右の動作などを認識する「加速度センサ」が搭載されており、モバイルゲームの操作や万歩計機能などに活用されている。ソフトをスマホに導入すれば、加速度センサを応用して、通常の操作機能でも、動かしたい方向にスマホを振るだけで可能になる。例えば「Enter(確定)キー」は、真下にスマホを降り下げるだけで操作が完了するという。

誤作動を防ぐための“フォロー”も忘れない。動作の強弱や特徴などで、意図した動きと無意識の動きを見分ける検知能力もある。「振るといふさりげない行為だけで操作できるのは画期的」(ITジャーナリスト)と業界関係者のお墨付きもある。斉藤社長は「手や指に障害を持つ方々でもスマホを使えるようになればという思いから開発をスタートした。情報を誰でも直感的に扱えるようになれば本当の『情報バリアフリー』になる」としている。(板東和正)